



平成18年12月26日

原子力安全対策室

担当者 高木

内線 1882 直通 0952-25-7081

E-mail:

takaki-takahiro@pref.saga.lg.jp

玄海原子力発電所2号機の1次冷却材中のヨウ素濃度上昇について 調査結果の連絡がありました

11月7日、九州電力から、運転中の玄海原子力発電所2号機の1次冷却材中のヨウ素濃度が上昇傾向にあり、燃料集合体に漏えいが発生した疑いがあることから、燃料集合体全数(121体)の調査を行う、との連絡を受けました。

また12月12日には、九州電力から、燃料集合体全数の調査を行ったところ、1体に漏えいが確認された、今後、超音波及びファイバースコープによる調査を実施する、との連絡がありました。

(11月7日、12月12日にプレスリリース済、環境への影響なし)

その後、九州電力では、漏えいが認められた燃料集合体について、超音波及びファイバースコープによる調査等を実施していましたが、その調査結果について、本日、以下のとおり連絡がありましたのでお知らせします。

〔九州電力からの連絡概要〕

漏えいが認められた燃料集合体の燃料棒全数(179本)について超音波による調査を実施した結果、燃料棒1本に漏えいが認められた。

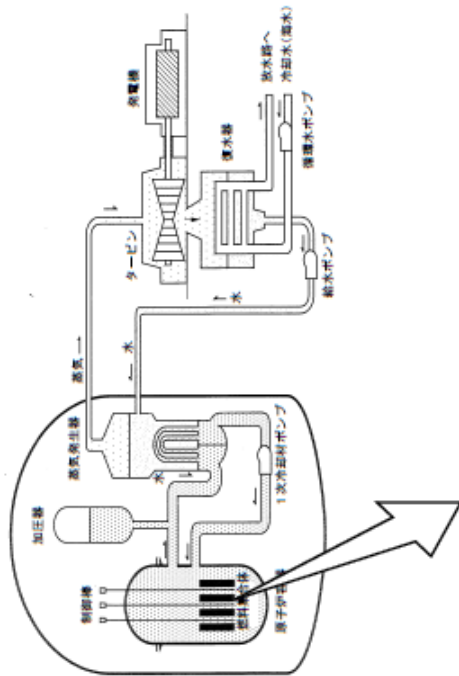
漏えいが認められた燃料棒について、ファイバースコープによる調査を実施した結果、異物の混入、損傷及び著しい腐食などの異常は認められなかった。

今回の1次冷却材中のヨウ素濃度上昇は、燃料棒に偶発的に発生したピンホール(目に見えないほどの小さな穴)からの微少な漏えいが原因と推定される。

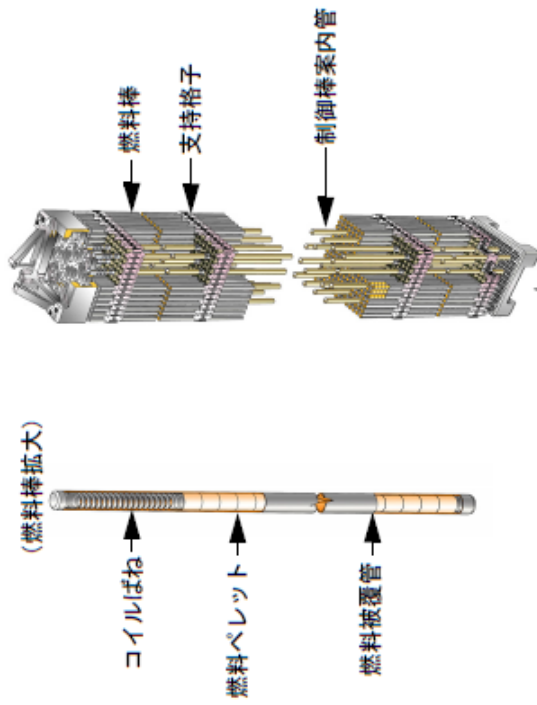
なお、今回漏えいが確認された燃料集合体は、使用済燃料として扱い、再使用しないこととする。

玄海原子力発電所2号機 漏えい燃料集合体の概要

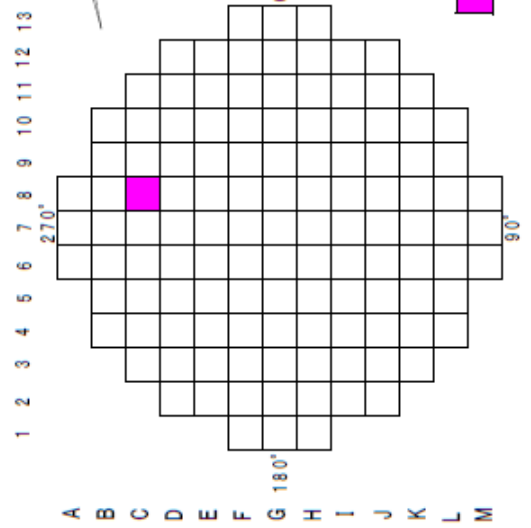
概要系統図



燃料集合体概要図



当該燃料集合体位置図



当該燃料棒位置図

